

【外国語活動・外国語】 目標・内容表

特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照

学部	小学部(外国語活動)	中学部(外国語)	高等部(外国語)	
教科の目標	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語の音声や基本的な表現に触れる活動を通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	
知識及び技能	(1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気付き、外国語の音声に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。	(1) 外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。	
思考力、判断力、表現力等	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。	(2) 身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。	(2) コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	
学びに向かう力、人間性等	(3) 外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	(3) 外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	
段階の目標			1段階	2段階
知識及び技能			ア 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すことを中心とした実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。	ア 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。
思考力、判断力、表現力等			イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などを真似ながら読んだり、外国語の文字をなぞって書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。	イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。
学びに向かう力、人間性等			ウ 外国語の背景にある文化について理解し、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。	ウ 外国語の背景にある文化について理解し、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

学部	小学部	中学部	高等部	
内容			1段階	2段階
知識及び技能	(1) 英語の特徴等に関する事項 具体的な言語の使用場面や具体的な状況における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(1) 英語の特徴等に関する事項 実際に英語を用いた場面や状況等における言語活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 言語を用いてコミュニケーションを図ることの楽しさを知ること。	ア 英語の音声や基本的な表現に慣れ親しむこと		
		(ア) 英語の音声を聞き、真似て声を出したり、話したりしようとする事。	(ア) 英語の音声及び簡単な語句や基本的な表現などについて、日本語との違いに気付くこと。 ⑦ 英語の音声を聞いて話したり、文字を見て読んだり書いたりして日本語の音声や文字などとの違いに気付くこと。	ア 英語の音声及び簡単な語句や基本的な表現などについて、日本語との違いに気付くこと。 ⑦ 英語の音声を聞いて話したり、簡単な語彙などを読んだり書いたりして日本語の音声や文字などとの違いに気付くこと。
		(イ) 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりなどの働きがあることを感じ取る事。	① 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりするなどの働きがあることに気付くこと。	① 英語の音声や文字も、事物の内容を表したり、要件を伝えたりするなどの働きがあることに気付くこと。
		(ウ) 基本的な表現や語句が表す内容を知り、それらを使うことで相手に伝わることを感じ取る事。	② 簡単な語句や基本的な表現などが表す内容を知り、それらを使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。	② 簡単な語句や基本的な表現などが表す内容を知り、それらを使うことで要件が相手に伝わることに気付くこと。
	イ 日本と外国の言語や文化について、以下の体験を通して慣れ親しむこと。	イ 日本と外国の言語や文化に慣れ親しむこと。		
	(ア) 英語の歌や日常生活になじみのある語などを聞き、音声やリズムに親しむこと。 (イ) 外国の生活や行事などに触れ、日本と外国の生活や違いを知ること。	(ア) 体験的な活動を通して、日本と外国との生活、習慣、行事などの違いを知ること。 (イ) 対話的な活動を通して、相手の発言をよく聞こうとしたり、相づちや表情、ジェスチャーなどで応じようとする事。		
思考力、判断力、表現力等	(2) 自分の考えや気持ちなどを表現したり、伝えたりする力の素地に関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面などに応じて表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	(2) 情報を整理し、表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて情報や考えなどを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。	イ 情報を整理しながら考えなどを形成し、英語で表現したり、伝え合ったりすることに関する事項 具体的な課題等を設定し、コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、これらを表現することを通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
	ア 身近で簡単な事柄について、注目して見聞きしようとする事。	ア 日常生活に関する簡単な事柄について、伝えたいことを考え、簡単な語などや基本的な表現を使って伝え合うこと。	(ア) 簡単な事柄について、伝えようとした内容を整理した上で、簡単な語句などを用いて自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。	(ア) 身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で簡単な語句や基本的な表現などを用いて伝え合うこと。
	イ 身近で簡単な事柄について、相手の働きかけに応じようとする事。	イ 日常生活に関する簡単な事柄について、自分の考えや気持ちや考えなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり、質問に答えたりすること。	(イ) 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりすること。	(イ) 身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりすること。

学部	小学部	中学部	高等部	
内容			1段階	2段階
思考力、判断力、表現力等	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 (2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を取り上げるようにする。	(3) 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 (2)に示す事項については、(1)に示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。	ウ 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 イに示す事項については、アに示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。	ウ 言語活動及び言語の働きに関する事項 ① 言語活動に関する事項 イに示す事項については、アに示す事項を活用して、例えば、次のような言語活動を通して指導する。
	ア 聞くこと (ア) 既に経験している活動や場面で、英語の挨拶や語などを聞き取る活動。	ア 聞くこと (ア) 文字の発音を聞いて文字と結び付ける活動。	ア 聞くこと ㊦ 自分に関する簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。	ア 聞くこと ㊦ 自分ことや学校生活など身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を聞き、それらを表すイラストや写真などと結び付ける活動。
	(イ) 既に知っている物や事柄に関する語などを聞き、それが表す内容を実物や写真などと結び付ける活動。	(イ) 身近で具体的な事物に関する簡単な英語を聞き、それが表す内容をイラストや写真と結び付ける活動。	① 日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、表示などを参考にしながら具体的な情報を聞き取る活動。	① 日付や時刻、値段などを表す表現など、身近で簡単な事柄について、具体的な情報を聞き取る活動。
		(ウ) 挨拶や簡単な指示に応じる活動。		㊧ 友達や家族、学校生活など、身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現で話される短い会話や説明を、イラストや写真を参考にしながら聞いて、必要な情報を聞き取る活動。
	イ 話すこと (ア) 既に経験している活動や場面で、実物や写真などを示しながら自分の名前や好きなものなどを簡単な語などを用いて伝える活動。	イ 話すこと[発表] (ア) 自分の名前、年齢、好みなどを簡単な語などや基本的な表現を用いて表現する活動。	イ 話すこと[発表] ㊦ 簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の趣味や得意なことなどを含めて自己紹介をする活動。	イ 話すこと[発表] ㊦ 簡単な語句や基本的な表現を用いて、身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを話す活動。
	(イ) 既に知っている歌やダンス、ゲームで、簡単な語や身振りなどを使って表現する活動。	(イ) 身近で具体的な事物の様子や状態を簡単な語などや基本的な表現、ジェスチャーを用いて表現する活動。		
		ウ 話すこと[やり取り] (ア) 簡単な挨拶をし合う活動。	ウ 話すこと[やり取り] ㊦ 挨拶を交わしたり、簡単な指示や依頼をして、それらに応じたり断ったりする活動。	ウ 話すこと[やり取り] ㊦ 身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちを伝えたり、簡単な質問をしたり質問に答えたりして伝え合う活動。
		(イ) 自分のことについて、真体物などを相手に見せながら、好みや要求などの自分の考えや気持ちを伝え合う活動。		
		(ウ) ゆっくり話される簡単な質問に、英語の語など又は身振りや動作などで応じる活動。		
		エ 書くこと (ア) 身近な事物を表す文字を書く活動。	エ 書くこと ㊦ 活字体の大文字、小文字を区別して書く活動。	エ 書くこと ㊦ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ語彙などを書き写す活動。
	(イ) 例示を見ながら自分の名前を書き写す活動。	① 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。	① 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを書き写す活動。	
		㊧ 相手に伝えるなどの目的をもって、身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ語彙などを書き写す活動。		

学部	小学部	中学部	高等部	
内容			1段階	2段階
思考力、判断力、表現力等		オ 読むこと (ア) 身の回りで使われている文字や単語を見付ける活動。	オ 読むこと ㉞ 活字体で書かれた文字を見て、どの文字であるかやその文字が大文字であるか小文字であるかを識別する活動。	オ 読むこと ㉞ 日常生活に関する身近で簡単な事柄を内容とする掲示やパンフレットなどから、自分が必要とする情報を得る活動。
		(イ) 日本の人の名前や地名の英語表記に使われている文字を読む活動。	① 活字体で書かれた文字を見て、その読み方を発音する活動。	① 音声で十分に慣れ親しんだ簡単な語彙などを、挿絵がある本などの中から識別する活動。
	② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	② 言語の働きに関する事項 言語活動を行うに当たり、主として次に示すような言語の使用場面や言語の働きを取り上げるようにする。	
	ア 言語の使用場面の例 (ア) 児童の遊びや身近な暮らしに関わる場面 ㉞ 歌やダンスを含む遊び ① 家庭での生活 ② 学校での学習や活動 など	ア 言語の使用場面の例 (ア) 特有の表現がよく使われる場面 ㉞ 挨拶をする ① 自己紹介をする ② 買物をする ③ 食事をする など	ア 言語の使用場面の例 ㉞ 特有の表現がよく使われる場面 ・挨拶 ・自己紹介 ・買物 ・食事 ・道案内 ・旅行 など	
	(イ) 特有の表現がよく使われる場面 ㉞ 挨拶 ① 自己紹介 など	(イ) 生徒の身近な暮らしに関わる場面 ㉞ ゲーム ① 歌やダンス ② 学校での学習や活動 ③ 家庭での生活 など	① 生徒の身近な暮らしに関わる場面 ・学校での学習や活動 ・家庭での生活 ・地域での生活 など	
	イ 言語の働きの例 (ア) コミュニケーションを円滑にする ㉞ 挨拶をする	イ 言語の働きの例 (ア) コミュニケーションを円滑にする ㉞ 挨拶をする ① 相づちを打つ	イ 言語の働きの例 ㉞ コミュニケーションを円滑にする ・挨拶をする ・呼び掛ける ・相づちを打つ ・聞き直す など	
	(イ) 気持ちを伝える ㉞ 礼を言う など	(イ) 気持ちを伝える ㉞ 礼を言う ① 褒める	① 気持ちを伝える ・礼を言う ・褒める ・謝る など	
		(ウ) 相手の行動を促す ㉞ 質問する	② 事実・情報を伝える ・説明する ・報告する ・発表する など	
			③ 考えや意図を伝える ・意見を言う ・賛成する ・承諾する ・断る など	
			④ 相手の行動を促す ・質問する ・依頼する ・命令する など	
その他の外国語		その他の外国語については、外国語の2の内容の[英語]に準じて指導を行うものとする。	その他の外国語については、[英語]に示す内容に準じて指導を行うものとする。	その他の外国語については、[英語]に示す内容に準じて指導を行うものとする。